

ママたちの震災

⑫

子どもとの時間が無い

板林恵さん(36)は5年前、陸前高田市を襲った津波で市街地にあった自宅を流された。幸い、夫と当時1歳だった長男の家族3人も無事だった。

震災から約2週間後、勤め先から業務再開の知らせを受けた。職場のある大船渡市まで、道路が混んでいたため車で約1時間かかった。仕事を終えて退社するのは夜9時すぎだった。

仮設住宅に帰宅し、長男を寝かしつけた後、午後11時近くになって夕食をとり、風呂に入るとい生活だった。「他のことを考える余裕がなかった。ご飯を食べなくてもいいんですけど、昼食の後、



大地震の約1時間前、室内で遊ぶ板林恵さんの長男。板林さん提供

何も食べずに仕事をしていたの
で」

当初、風呂に追いだき機能がなく、板林さんが入るころにはすっかり冷めていた。水を半分抜き、60度ぐらいの湯を足して40度ぐらいにした。「いつまでこんな生活を続けるんだろうと泣きたくなる気持ちでした」

会社は、震災から約1年後に辞めた。「通勤も含めて拘束時間が12時間。もう無理だろうと。周りから仕事を辞めるのはもったいないと言われたんですけど。わたしは子どもと過ごす時間がないのがもったいないって思いました」